

「パウロの作ったネットワーク」

ローマ 16: 1~15、 21 ~ 27

皆さんが自分の人生において失われたものは何でしょうか？今回は私たちの世代間について少し考えてみたいと思います。最近では、世代のことについて世代ごとに名前が付けられていて 45 歳から 60 歳ぐらいになっている人々が「X世代」、25 歳から 45 歳ぐらいが「Y世代」、10 歳から 25 歳ぐらいが「Z世代」次に「C世代」がやって来ると言われています。今日は私たちの世代間の考え方について考えてほしいのです。C世代の価値観と「コミュニティー社会」とは、これからの時代は「スマートフォンとコミュニティー」だと言われています。つまり世代間は無くなり、キリスト教会でも教派、学界や派閥も無くなりそれぞれ同じ思いを持っている人々がネットワークでつながる時代と言われています。時代は昔に戻ろうとしています。しかしそれを人のつながりで行おうとするのではなく、コンピューターでそれをつなげていこうとしています。本日の聖書箇所とこれらのことがどう関係あるのでしょうか。パウロが「〇〇によろしく」「〇〇を頼む」と言っているのは何故なのかと言うことなのです。

■ パウロのネットワーク

彼が伝えたかったことは「私はローマの全土に福音を伝え終わった」といいました。25 年の年月で実際にパウロ自身が自らでローマ人全員に伝えることができたのでしょうか。パウロはネットワークによって宣教を進めて行ったのです。16 章の中でのパウロの挨拶からそのネットワークがどんなものであったかを見ることができます。【フィベ】多くの人を助けた卓越した女性。【プリスカとアクラ】命がけで戦った同労者。アポロの伝道の援助を育てた。【エパネト】異邦人でアジアでの初穂。【マリヤ】非常に労苦したユダヤ人。【アンドロニコとユニアス】同国人で共に投獄されたことがある。【アムプリアト】奴隷。【ウルバノとスタキス】同労者、ローマ出身の異邦人信者。【アペレ】信仰歴が長い【アリスプロの家の教会】ヘロデ大王の孫（高貴な身分）【ヘロデオ】ヘロデ家につながるユダヤ人である。（高貴な身分）【ナルキソの家の教会】大金持ち【ツルバナとツルボサ】：温厚な異邦人の姉妹（女性）【ペルシス】ペルシャの婦人。【ルボスとその母】クレネ人シモンの妻（ルボスの母）とルボス。【アスクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマスおよびその人たちといっしょにいる兄弟たち・フィロロゴとユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンバおよびその人たちといっしょにいるすべての生徒たち】ナルキソの家の教会。この様 15 節まで 28 人の実名の人たちが出てきます。女性・同労者・異邦人・ユダヤ人・奴隷・高貴な身分・信仰が長い人・最初に救われた人・大金持ち…全員に「よろしく」とあいさつをしています。16 節「聖なる口づけをもって愛し合いなさい」とパウロがこのローマ書 16 章の最後で言っているこれが「ネットワーク」なのです。25 年間かかって、パウロが必死に作り上げたものは自分が立て上げるという働きではなく、自分が同じ思いを持った人々をどれだけ育て上げるかということでした。その人達と信頼関係を築くかということ。パウロは「宣教は愛の実践」と語っており、そしてそれは役割の責務を果たすということに繋がります。①ともに働き ②ともに労苦し ③共に生きるそこに切れないネットワークができます。それを継承していきます。最先端で最古のものそれがネットワークです。

現代はそのネットワークを端末をもって作ろうとしています。しかしそれでは人と人の心の信頼は埋まりません。パウロは真剣にその人のもとに向いて向き合いました。パウロが作ろうとした教会の方法は自分一人が宣教地に行き行って伝える方法ではなく、そこに居る何人かの人と非常に深く関わってその人たちに自分が生きようとする生き様を伝えることだったのです。それは教えではありません。パウロはローマに行っていないのにも関わらず書かれた手紙の内容は厳しいものです。それは、そこに居るリーダーがパウロと非常に信頼関係があったことがわかります。

■ 私たちも任されている

皆さん今ぜひ、自らの人生とパウロの生き方を照らしてみてください。そして、私には関係がないと聞かないでください。あなたは社会に属しています。あなたは一人で生きていたのではありません。自分が自分の人生を生きているのだと勘違いして生きています。そして、自分が決めたことがすべてで、自分が何かをすることで他人に迷惑をかけるわけではないと思っています。しかし、パウロはそのことについて、

そうではないと伝えています。パウロは一部の偏った自分の人間関係だけを選んだのではないのです。そこが大事です。同情で選ぶ決断は絶えず私たち自身が自らと共感できる人だけでコミュニケーションを取ろうとしています。しかしコミュニケーションとコミュニティというのは、その場に属する全てを指します。あなたが生かされている地域にあなたが勝手に咲いているのではありません。あなたはそこに置かれたのです。つまり置かれている場所にいる全ての人があなたに任された人なのです。しかし私たちは自分が共感できる人とネットワークを保ち、自分が分かり合える人とだけ分かり合って何かをしようとするのです。ここに大きな問題があります。パウロは教会と言われる組織が、聖なる口づけをもって愛し合いなさい。伝えています。みなさん、今あなたの心の中を探ってください。あなたはあなたの目線で人を判断して、その人を排除して自分に任されたものを捨てていませんか。伝道者の書に書かれているように「近づくのに時があり離れるのに時がある。植わるのに時があり抜かれるのに時がある」すべての営みに時があり人はわきまを知らず知ることではできません。しかし、神のなされることはすべてに勝って美しいのです。ですから神様はその美しいことをするために、このずれた私たちを今日使おうとしています。そこで理解しておかなければならないことは、神様の時に生きるために私たちはその全ての人を愛そうとする力・決断です。パウロが伝えたいのは「宣教は愛の実践」で、愛の実践というのはあきらめないことなのだという事なのです。私たちはすぐに諦めます。少し関わって駄目なら捨て去ります。しかし、パウロはそうではありませんでした。パウロは教会に不一致が起こったのを見て獄舎の中から命がけで手紙を書いて、その命がけの手紙を命がけで運ばせて伝えたのです。誰を排除するのではなく全ての人たちによろしくと伝えてください。と言ったのです。

それぞれ違う境遇と立場があり、迫害の中で一つとなりましたが分裂が起こって色々な問題が起きました。しかし、全ての人が一つの家族として神様が選んだ人達なのです。その人達に対してパウロは「聖なる口づけをもって愛し合いなさい」と言いました。それは自分が嫌な相手に対して近づいて口づけをするくらい親しくするという事です。それは教会の中でも、社会でのコミュニティーの中でも同じです。その愛を持った行動が関係を作るということなのです。25 年かけてローマの迫害下の中で全土に福音が運ばれた理由はパウロが聖なる口づけをもって人々を愛しネットワークを作ったからです。排除してきた人生の彼が、排除しない人生を選んだということなのです。

まとめ

携帯電話で人間関係は作れません。直接、顔と顔を合わせ愛して向き合うこと、それがコミュニティです。私たちは、神様に言われた最初のコミュニティ『ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。』（マタ 18:20）を実践する事が出来ているでしょうか。

あなたが志を行う時、そこにコミュニティ（社会）を作ってください。その只中に神様がおられます。一人で行うのはよくありません。パウロは手紙の中で誰一人適当に書いてはいません。パウロは知恵に富んでいましたがそれ以上に愛がありました。知恵と愛の両輪が大切です。あなたが大切な存在であることを忘れないでください。そして、あなたが差し出すその手を待っている人がいることを忘れないでください。もう一度私たちの生き方が、パウロが願ったように出来ているか顧みみましょう。誰かを排除してはいませんか。愛しているから愛することができます。愛しているから待つことができます。私たちに愛はありますか。しかし、私が愛されたように神様が愛している人々を愛す。このことを私たちに向けられたイエス様の愛によって為して行くことではありませんか。

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。』（ヨハ 15: 12,13)

(要約者:澤口 健樹)

(2020年2月9日)